保健室

牧之原市立菅山小学校

養護教諭　山村恵美子

本校は、牧之原市の西側に位置し、周りを田畑や川に囲まれた自然環境豊かな場所にあります。全校児童数は141名で、学校教育目標「心豊かでたくましい子」、重点目標「気づき　考え　行動する子」の具現化を図るため、かがやきづくりを通して、日々の教育活動が展開されています。

学校保健目標を「進んで心身の健康づくりに取り組む子」とし、子どもたちが自分の体や心を見つめ、健康的な生活を意識し実践できるよう、心と体の両面からサポートしていきたいと思い、日々子どもたちと関わっています。

明るく素直で一生懸命に物事に取り組もうとする子どもたちですが、一人一人を見ていくと、自尊感情が低く、自分に自信が持てない子どももいます。思いを持っていても誰かが言ってくれるだろう、誰かがやってくれるだろうと積極的になれなかったり、自分を表現できなかったりする子もいます。子どもたちが自信を持ち、より意欲的に学習や運動に取り組んでほしいと願っています。そこで、昨年度の学校保健委員会では各自がエゴグラムを作成する体験を通して、性格や行動のクセ、心の状態など自分自身を見つめる機会を持ちました。さらに講話を通して、自分の行動を見つめたり、友達との関わり方について学んだりするなかで、自分を高めていこうとする意識が育ちました。子どもの感想からは、「知らなかった自分を知ることができてよかったです。」「『だめだな』と思うところが当たっていて、直すためのアドバイスをもらえました。」「自分のよいところもたくさん知ることができて自信がつきました。」など、自分の行動や心について知ったり、振り返ったりするなど、とても有意義な時間となりました。

保健室では、子どもたちのいろいろな側面が見受けられます。毎日様々な訴えで子どもたちが来室します。子どもの思いを聴くなかで、発達段階に応じて、今の自分の状況を理解させ、体の持っている力や自然治癒力に気づかせること、さらには応急処置や生活改善など子ども自身ができることを実践できるよう働きかけていくことなどを心がけています。今後も、子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができるよう、子どもに寄り添い支援をしていきたいと思います。

浜松市立曳馬中学校

養護教諭　浅野　慶子

曳馬中学校は生徒数750名の大規模校で、浜松市の中心部に位置し、商店、住宅、巨大マンションに囲まれています。校名「曳馬」の由来は、万葉集や続古今集に「ひくま野」、十六夜日記には「ひくま宿」、また浜松城が「曳馬城」ともいわれたと記されるなど、大変歴史的価値ある名前です。地域住民の学校教育への期待、関心は高く、協力も惜しみません。

多くの生徒は素直で明るく、自己の目標に向かって努力することができています。しかし、一方では自分で考えて行動する力が弱かったり、自尊感情が低く、人との関わりを苦手としたりする生徒もいます。保健室には、友人関係のトラブルや家庭の悩みから不定愁訴で来室する生徒、ケンカや不注意でケガをして来室する生徒、個別の支援や他機関との連携を必要とする生徒など、様々な理由で多くの生徒が来室しています。

このような実態から学校教育目標「夢と希望と勇気をもって生きる生徒の育成」の実現に向けて、「自ら学ぶ生徒」「正しく判断し、行動する生徒」「心身を鍛える生徒」を重点目標として様々な活動を展開しています。保健室でも生徒が心身の健康に目を向け、よりよい自己決定ができるよう、保健活動に取り組んでいます。

浜松地区で取り組んでいる「学校保健週間」には、生徒が発する言葉の影響について考えさせ、より良いコミュニケーション力を身につけさせたいと思い『心の健康～言葉の使い方～』を校区の小中学校で共通テーマとし、各校、同じ講師による講話を聞きました。「人は変わることができる。言葉の習慣を変えることは、考えの習慣、行動の習慣を変え、自分の夢を叶えることにつながる。」という講話を聞き、「言葉ひとつで人を傷つけることも、幸せな気持ちにすることもできる。だからこそ日々の生活の中でもっと言葉を大切にしていきたい。」「マイナスの言葉をよく使っているけど、周りの人たちは決して気持ちよくないと思う。プラスの言葉を使うように心がけていきたい。」など、生徒から感想が寄せられました。

今後も小中が連携し、9年間の長いスパンの中で継続的・系統的な取り組みを行うことで、健康への意識を高め、よりよい自己決定や、自己管理能力の向上につながるように努めていきたいと思います。

げんきな事業所

株式会社巴川製紙所　静岡事業所

（静岡市駿河区用宗巴町三番一号）

株式会社巴川製紙所は、2014年6月に創業100周年を迎えます。

弊社は、欧米からの輸入に頼っていた「電気通信用紙（さん孔紙）」と「電気絶縁紙」の国産化という電力・電線各社及び通信省等などからの要請に応えるため、1914年に清水（現・静岡市清水区）の巴川河畔で創業しました。苦労の末「電気絶縁紙」の国産化を成し遂げ、「特殊紙の巴川」と呼ばれる地位を築きあげました。爾来弊社はその都度時代のニーズに応えるべく、情報関連の世界で放電記録紙、謄写ファックスに加えて軽印刷用オフセットマスター、電子写真用トナーを立ち上げ、交通産業においては磁気乗車券の開発を手がけ、電子産業の分野では半導体リードフレーム固定用テープ、半導体・液晶用静電チャック、フラットパネルディスプレイ用光学フィルムといった「製紙会社」の枠を大きく超えた多様な製品を生み出してきました。

2006年には通称社名を「TOMOEGAWA」と定め、「高機能性材料メーカーのTOMOEGAWA」として、創業事業である抄紙技術に加えて「粘着・接着、粉体、塗工」を生産技術の軸として、更なる成長を追求しております。2013年10月には子会社である新巴川製紙株式会社を吸収合併し、異なる技術分野の融合による新技術・新製品開発の加速化を図っております。

1978年のアメリカ・イリノイ州へのトナー工場建設を皮切りに海外への展開も加速させており、今世紀に入ってからは中国を第3のトナー製造拠点とすべく、2005年に広東省恵州市、2011年に江西省九江市に工場を設立しました。「電気絶縁紙」は新興国での需要があり、2012年にインドのAura Paper Industries (India) Pvt.Ltd.に40％の出資を行って絶縁紙ビジネスの拡大を図るなど、着実に伸ばしつつあります。

弊社は、創業精神として掲げる「誠実・社会貢献・開拓者精神」を堅持し、「これからも時代のニーズに応じた製品づくりを目指します」のスローガンのもと、次の50年、100年に目を向けて、誠実に事業に取り組み、社会に貢献する企業であり続けます。

弊社の社長方針の筆頭には「安全最優先の徹底」が挙げられています。経営トップから現業職場まで職制の指導・職場の自主活動を通じて、無災害達成に向けて全員参加の「ゼロ」災活動・「ゼロ」災職場の形成を目指しています。

展開するビジネス分野が多岐に亘りますので、従業員の職場と作業も様々です。健康や安全衛生の管理もそれに応じて多様になっています。

弊社は静岡事業所に診療所を開設して、従業員の安全衛生健康面でのサポートをおこなっています。定期健康診断の実施やインフルエンザ予防接種を始め、体調不良や生活習慣病への適切な診断・指導は、職場の身近にある診療所でこそ対応できることであり、また利点です。気軽に相談に応じてもらえる診療所は、事業所に働く従業員にとってたいへんありがたい施設です。

産業医が弊社の一般・特殊健康診断の結果を分析し、社内研修会などの場を利用して、弊社の健診結果の傾向、健康増進に向け取り組むべき課題などを社員向けに説明しています。

リスクアセスメントで見逃された労働衛生管理上の問題点が、特殊検診で見つかることもあります。そのような場合には、安全・衛生管理者、職場、産業医らが一丸となり作業環境改善に向けて取り組んでいます。

健康診断は法的義務があっておこなう面もありますが、結果から得られる事実を見逃さず職場の改善に結び付けられれば、弊社の望む無災害達成、「ゼロ」災活動、「ゼロ」災職場の形成に着実に近づくと確信しています。そのような手助けをしていただく静岡県予防医学協会様の存在は、弊社にとってかけがえのないものであり、たいへん感謝します。これからも引き続き、健康面でのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

弊社の事業はホームページに掲載しております。是非ご覧ください。

http://www.tomoegawa.co.jp/

100周年記念ロゴマーク

王冠のロゴに込めた意味

- ３つの赤い正方形は、創業精神に謳われる「誠実」「社会貢献」「開拓者精神」を示します
- 王冠は、この正方形が歩みを進むことで形成された、これまでの歴史を表しています
- 王冠は、これから50年の社業発展を見据えた証でもあります

1933年竣工当時の静岡事業所

現在の静岡事業所

会社情報

経営方針（創業精神）

私たちは、社会的に存在価値のある企業として未来永劫に存続し、成長し、発展することを基軸として、「誠実」「社会貢献」「開拓者精神」を至上の行動原理とすることを創業精神に定めております。

誠実	我々は事業に対しても、人に対しても誠実を旨とする
社会貢献	我々は事業を通じて社会に貢献する
開拓者精神	我々は開拓者精神をもって事業に挺身する